



お店のロゴ。大きさの違う「i」には、阿比留さんご夫婦二人の意味もあるそう。

プロフィール

28歳。上県町仁田出身。上対馬高校卒業後、福岡建設専門学校建築科に進学。在学中に家具に興味を持ち、卒業後インテリアや雑貨の店「フランフラン」に就職。ディスプレイや接客を学びながら家具の工房を巡り起業の道を模索。離職し1年間職業訓練校で木工を学び、大川の家具会社に就職。2年在職する間に独立の準備をし、対馬に工房「kiiro」をオープン。今年で4年目となる。会社の先輩だった奥様と、去年2月に生まれた女の子の3人暮らし。

家具へ転向された理由は？

専門学校在学中に、建築という大きい外観よりもその中身に興味を持ったんです。人に見せる部分よりも、自分が快適に過ごせる中身の部分が充実したほうが本当の幸せなんじゃないかと思って。僕は人生の計画とか事業計画とか立てるのが好きで、就職した時もその会社にずっといるのではなく自分で一から作る職人になろう、それにはどうしたら近道か、というのを模索して職業訓練校に入りましたし、その後大川の家具会社に入った時も独立する計画を立てているんな準備をしました。

工房の名前「kiiro」の由来は？

工房の名前も準備の間ずっと考えていたんです(笑)。あまり長くない、分かりやすい名前にと考えていたら「キイロ」という言葉が浮かんできて。素材を大切にしたいという思いから木の色という意味のキイロ、それに黄色って明るいイメージだし、風水的にも良さそうだし(笑)。私たちの作った家具で、家庭が明るく、黄色いひまわり畑のようになっただけだと思って。

材料に対馬ひのきを使用されていますね。

山の仕事をする人が減っている中で、自分たちが対馬に工房を持ち地元材料を使って製作することに意味があると思ったので。良いものを作るだけでなく自然の事も考えながら会社を作っていけたらと思います。間伐材を使うことにしました。いつても戦後に植えられ伐期を迎えた40〜50年生の木がほとんどですから、それなりに大きいですが、あまりに小さい木は山に置かれたまま捨てられています。大雨の時などは流されて危ないですから、そういった材料の利用法も考えていかなければいけないのではないのでしょうか。

現在は家具から雑貨までお作りですが、お子様がお生まれになつてモノづくりで何か変わったことはありますか？

子どものための机やいすを作りたいなと思ったりしますね。あと嫁さんが子どものおもちやを作るのが多くなりました。娘の反応を見ると、けっこうおもしろい使い方をして興味深いです(笑)。

お仕事始めて4年目、今後の目標などありますか？

市もイノシシやシカの皮の利用に取り組んでますが、僕は福岡在住のデザイナーで対馬市のロゴマークをデザインされた中庭日出海さんとコラボレーションして、木と革を組み合わせた日用雑貨やデスク用品の新ブランド「sio」を立ち上げることになりました。来年2月の東京見本市に出展する予定です。

それと、自分の家のための家具を作るのが後回しになってるんで、今後の目標は自分の家の家具を作って自分の家の生活を充実させるということですかね(笑)。そして実際生活する中で「なじみようだとか、傷がついた家具を見たらもういいんじゃないかな」と思いますね。僕たちは、使った味が出るといった家具を作りたいなと思ってるので。ジーンズのように、穿けば穿くほど味が出るような。

毎回、登場して下さった方に次の方を紹介いたたくこのコーナー。次回は上対馬町大浦在住の大浦有貴さんです。お楽しみに。